

一橋大学大学院経済学研究科 金融工学教育センター
Center for Financial Engineering Education

平成 24～27 年度 活動報告

平成 28 年 3 月

目次

はじめに	2
第Ⅰ部 活動報告	2
1. 概要	2
2. 施設	2
3. 関係教員・学生	3
4. 活動	4
5. 成果	5
6. 広報	5
第Ⅱ部 修了生へのアンケート	6

はじめに

この活動報告は、文部科学省の平成 19 年度大学院教育改革支援プログラム(旧名称)による支援が終了した後の、平成 24～27 年度の活動を主に収録している。平成 19～21 年度活動の詳細は、平成 22 年 3 月発行の「平成 19～21 年度 活動報告書」を、平成 22～23 年度活動の詳細は、平成 24 年 3 月発行の「平成 19～23 年度 活動報告(主に平成 22～23 年度)」を参照されたい。

第 I 部 活動報告

1. 概要

本学大学院経済学研究科 金融工学教育センター(Center for Financial Engineering Education)は、本学による「文系修士課程における金融工学教育モデル」が文部科学省の平成 19 年度大学院教育改革支援プログラム(旧名称)に採択されたことにより、その支援を受けて平成 19 年 12 月に誕生した。文部科学省からの支援は平成 22 年 3 月末に終了したが、本学の統計・ファイナンスプログラムにおける金融工学教育をより充実、発展させることを目指し、対象学生も当初の 5 年一貫教育システムと修士専修コースの統計・ファイナンスプログラムの学生だけでなく、博士課程の学生まで広げて、さらに幅広く活動を続けてきた。

2. 施設

(1) 所在

一橋大学東キャンパス マーキュリータワー 4 階 3402 室

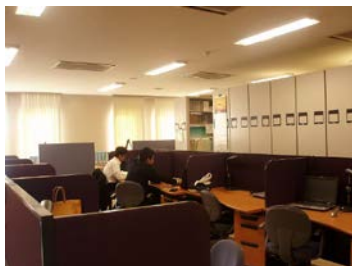
(2) リソース

[機 器 等] ワークステーション 3 台, ノートパソコン 3 台, プリンター 2 台,
複写機(リース)1 台, 学生用固定机 16 台, 書架など

[データベース] Bloomberg (H25. 4～H27. 3 月終了)

[計 算 ソ フ ト] EViews, GAUSS, MATHEMATICA, MATLAB, OxMetrics5, RATS, S-PLUS, STATA,
TSP5.1+OxMetrics6, Visual Studio

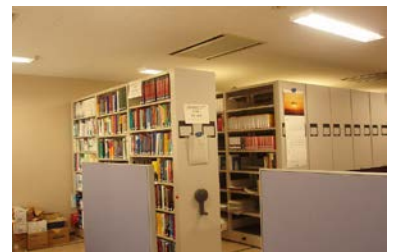
[蔵 書] 書籍(洋書・和書), 専門誌, 資格テキスト・専門誌 600 冊以上



cfee 室内



機器



蔵書

3. 関係教員・学生

(1) 教員

H24 [経済学研究科]石村直之(代表), 青沼君明, 石原庸博, 川口大司, 黒住英司, 桑名陽一,
齊藤誠, 斯波恒正, 田中勝人, 本田敏雄, 山本庸平(11名)

[経済研究所]祝迫得夫, 渡部敏明(2名)

[商学研究科]高岡浩一郎, 高見澤秀幸(2名)

H25 [経済学研究科]石村直之(代表), 青沼君明, 石原庸博, 川口大司, 黒住英司, 桑名陽一,
齊藤誠, 斯波恒正, 本田敏雄, 山本庸平, 山田昌弘(11名)

[経済研究所]祝迫得夫, 渡部敏明(2名)

[商学研究科]高岡浩一郎, 高見澤秀幸(2名)

H26 [経済学研究科]石村直之(代表), 本田敏雄(副代表), 青沼君明, 石原庸博, 川口大司,
黒住英司, 桑名陽一, 齊藤誠, 斯波恒正, 山本庸平, 山田昌弘(11名)

[経済研究所]祝迫得夫, 渡部敏明(2名)

[商学研究科]高岡浩一郎, 高見澤秀幸(2名)

H27 [経済学研究科]本田敏雄(代表), 山田俊皓(副代表) 青沼君明, 川口大司, 黒住英司,
桑名陽一, 齊藤誠, 斯波恒正, 山本庸平, 山田昌弘(10名)

[経済研究所]祝迫得夫, 渡部敏明(2名)

[商学研究科]高岡浩一郎, 高見澤秀幸(2名)

(2) 学生

(人)

年 度*	H24	H25	H26	H27
学 部 生	0	4	3	1
修士課程	9	7	11	10
博士課程	3	1	1	1
合 計	12	12	15	12

*各年度とも4月時点の在籍人数。

4. 活動

H24 年度 (H24. 4～H25. 3)

- 4 月 本学経済学研究科と日本大学総合基礎科学研究科との交流協定締結(H23. 3)により、学生交流(アクチュアリーコースの特別聴講)開始。
- 10/6 cfee 研究発表会
[発表者] 祝迫得夫(一橋大学経済研究所), cfee 所属学生 10 名
- 3/2 第 1 回研究集会「金融工学から ERM へ」
[発表者] Jin-Lung Lin(National Dong Hwa University, Taiwan), 刈屋武昭(明治大学), 高橋一(鳥取環境大学), 元山 芥(信州大学), 山中卓(三菱 UFJ トラスト投資工学研究所)

H25 年度 (H25. 4～H26. 3)

- 9/28 cfee 研究発表会
[発表者] 青山君明(一橋大学経済学研究科), cfee 所属学生 8 名
- 3/6 第 2 回研究集会「金融工学から ERM へ」
[発表者] Markus Bibinger(Humboldt-Universität zu Berlin), 林高樹(慶応義塾大学), 山田昌弘(一橋大学), 山内浩嗣(三菱 UFJ トラスト投資工学研究所)

H26 年度 (H26. 4～H27. 3)

- 9/24 cfee 研究発表会
[発表者] 石原庸博(一橋大学経済学研究科), cfee 所属学生 9 名
- 3/4 第 3 回研究集会「金融工学から ERM へ」
[発表者] Nikolaus Hautsch (University of Vienna), 高橋慎(大阪大学), 小池祐太(統計数理研究所), 石原庸博(一橋大学), 山田昌弘(一橋大学)

H27 年度 (H27. 4～H28. 3)

- 9/30 cfee 研究発表会
[発表者] 山田俊皓(一橋大学経済学研究科), cfee 所属学生 10 名
- 3/8 第 4 回研究集会「金融工学から ERM へ」
[発表者] Andrew Patton (New York University), Ying Chen (National University of Singapore), Yingying Li(Hong Kong University of Science and Technology), 塚原英敦(成城大学), 石原庸博(大阪大学), 山田昌弘(一橋大学), 山田俊皓(一橋大学)

5. 成果

(1) 学生の進路

- [銀行] 国際協力銀行, 中央三井アセット信託銀行, 日本銀行, バークレイズ銀行, みずほコーポレート銀行, 農林中央金庫, 三菱UFJ信託銀行, ベアースターンズジャパン
- [証券] 野村証券, みずほ証券, 大和証券
- [生命保険] 第一生命保険, 大同生命保険, 日本生命保険, マニユライフ生命保険, 明治安田生命保険, プルデンシャル生命保険
- [損害保険] あいおい損害保険, 損害保険ジャパン
- [その他] ニッセイアセットマネジメント, 野村アセットマネジメント, アクセンチュア, DIAMアセットマネジメント, みずほフィナンシャルグループ, 国際投信投資顧問, 日本経営システム, 東京ガス株式会社, 東京都庁

(2) 金融関係資格試験 6名

- [証券外務員1種] 2名
- [証券外務員2種] 1名
- [日本アクチュアリー会資格試験 第1次試験] 3名

(3) 修士論文 16件

- [平成24年度] 3件
- [平成25年度] 3件
- [平成26年度] 5件
- [平成27年度] 5件

(4) 博士論文 2件

- [平成24年度] 2件

6. 広報

(1) cfee ウェブサイト

<http://www.econ.hit-u.ac.jp/~finmodel/>

内容は、プログラムの概要・教員紹介、統計ファイナンスプログラムとcfee、イベント情報、リサーチ、リソース、学生向け情報、お問い合わせ・リンク。



(2) 平成19～21年度 活動報告書

平成22年3月発行 全126ページ。第I部 金融工学教育センター概要、第II部 資料編。

(3) 平成19～23年度 活動報告書(主に平成22～23年度)

平成24年3月発行 全10ページ。

(4) 平成24～27年度 活動報告書

平成28年3月発行 全12ページ。

第Ⅱ部 修了生へのアンケート

H24～27年度(H25, 26, 27, 28年3月)修了の学生にアンケート実施。回答のあった10名分のみ掲載。

統計・ファイナンスプログラム・アンケートの質問内容

1. 統計・ファイナンスプログラムへの参加を決めた理由。(200字程度)
2. 就職活動では、統計・ファイナンスプログラムの学生であることや、(5年一貫の人は)5年一貫の学生であることが役に立ちましたか？ または役に立ちませんでしたか？自由に書いて下さい。
3. このプログラムの提供科目は、将来の仕事に役立つと感じていますか？以下から選んで下さい。
(1)とてもそう思う (2)そう思う (3)どちらでもない (4)そう思わない
(5)全く思わない
4. 修士論文やその他の研究活動(プロジェクトを始めるに当たって、予備的な調査目的で使用した場合を含む)で、cféeのデータベース、ワークステーションを使用した場合、データベース名、データの修士論文などにおける使用され方を論文内容にも踏み込んで、どのように使ったか報告して下さい。
5. 統計・ファイナンスプログラムに参加して良かったと思うことについて、自由に書いて下さい。
6. 現在の統計・ファイナンスプログラムに対する要望や、不満があれば自由に書いて下さい。
7. 統計・ファイナンスプログラムの後輩へのメッセージ(200字程度)

= A さん =====

1. 大学院では金融工学(数理ファイナンス)を専攻する予定であったため、統計・ファイナンスプログラムが提供するカリキュラム、設備支援に大変興味がありました。同プログラムに所属することで、指導教員以外の先生方とも関わりを持つことができるのでは、と考えたことも参加のきっかけです。
2. 私の場合は、同プログラムに所属していることを就職活動で強調しなかったため、直接的に役立ったとは思いませんでした。
3. (1)とてもそう思う
4. 私は債券市場が織り込む信用リスクの推計をテーマとして修士論文を執筆しましたが、同論文の一部として実証分析を行う際に、Bloomberg を利用させて頂きました。Bloomberg を利用することで債券市場の時系列データを体系的に入手することが可能となり、大変有用であったと感じております。逆に、Bloomberg を利用できなかった場合を考えると、同様のデータを体系的に入手することが困難となるため、私が行った実証分析は実現しませんでした。
5. 専用の研究室やデータベースが自由に利用可能である点が、研究を進める際に大きな手助けとなりました。
6. 特になし。
7. 統計・ファイナンスプログラムに参加したことで、研究に役立つ多くの支援を受けることができました。素晴らしい環境の下で、自らの学術的な興味や関心を徹底的に掘り下げ、研究に慢心して頂きたいと思います。ご健闘をお祈り致します。

= B さん =====

1. 5年一貫教育プログラムの統計コースに参加したため。
2. 役に立ちませんでした。制度の説明を求められますし、私はファイナンスを研究テーマにしていなかったため、理解のある人以外にはただ話を複雑にしているだけでした。
3. (3)どちらでもない
4. 使用していません。
5. 自分のデスクが与えられたこと。非常に恵まれた環境を提供していただきありがとうございます。
6. ファイナンスに重点を置きすぎているため、計量等他の分野を専攻している人にとってはあまり興味のない分野のカンファレンスに参加することが、義務付けられるなど不満があると思います。
7. 恵まれた環境が与えられるので、しっかりと研究に取り組んでください。

= C さん =====

1. 金融機関で働く上では、専門的な知識と総合的な知識が必要になると考えておりました。そこで数理ファイナンスへの深い理解はもちろんのこと計量ファイナンス、計量経済学、統計学、数学、経済理論、コンピュータへの理解も欠かせないと考えており、こういった分野を大いに学べる環境であったことが主な参加理由です。また、経済統計専攻において深い専門知識をつけようと思っている同じ目標を持った人達と接することで自分の刺激となり、自分をより成長させてくれると考えたことも参加理由でした。
2. 統計・ファイナンスプログラムの学生であることを、直接話す機会はありませんでした。しかし、このプログラムを通じて金融について専門的かつ総合的な学習ができたことが、自分の自信となっていました。
3. (1) とてもそう思う
4. Mathematica では、時価総額と負債を足した資産価値の収益率が正規分布に従うのか、代表的な企業のデータを用いて行いました。Eviews では、データの定常性テスト(ADF 検定)と自己相関テスト(Ljung=Box 検定)を行いました。また、Bloomberg では、日経 225 に採用された 225 銘柄の時価総額、負債総額簿価、ジェネリック日本国債 1 年物(複利)のデータを取得しました。
5. 書籍やデータベースが充実していたこと。専門が近い方々と知り合い、研究について相談しあえる環境であったこと。9 月末もしくは 10 月上旬に行われる cfec 研究発表会は修士論文の中間発表の場となり、ファイナンス分野を専門とする指導教員以外の先生やプログラムの先輩の有益な意見を得られる場であったこと。
6. 特になし。
7. 専門的な学習や修士論文に取り組む際には、専門的な書籍やデータベースも大事ですが、ゼミは違えど自分の専門に近い人と出会い、共に学び合い気軽に相談できるような関係となることも自分にとって新たな刺激となり、大事なことであると思います。自分は cfec で出会った人と自分の専門ではなかった分野の勉強会を開き、そこから興味を持って、修士論文にも活きました。専門的な知識を持つようとする人が集まる場なので、お互い高め合いながら、面白いものを産んでください。

= D さん =====

1. 当初、金融関係の実証研究を考えていたこと。ブルームバーグ、貸与ノート PC など学習・研究環境が充実していそうだと感じた。
2. 役に立たなかった。cfec としての活動は年 1 回の発表と、先生方の発表の聴講等であり、就職活動でアピールできるような種類の活動ではなかったため。他にも個人的な理由として、金融機関をほとんど受けなかったというのがあります。
3. (2) そう思う 金融関係の仕事をする人には役に立つと感じる。
4. 特になし。
5. ブルームバーグが使える環境にあったこと。研究室など学習環境が優れている。
6. 高性能ノート PC 貸与と言われていたが、実際には全く高性能でなかった。途中から貸与もなくなった。
7. 研究室、ブルームバーグ、専門書など学習・研究する環境が優れているプログラムだと思います。頑張ってください。

= E さん =====

1. 私の専攻は応用経済学であり、公表データやマイクロデータを用いた実証分析を行っています。実証分析には、統計学の知識が必要であり、特に推定されたデータを正しく解釈するには、しっかりとした知識を身に着けることが必要です。そこで、様々な統計ソフトを使用することができ、着実に統計学を学ぶことのできる統計・ファイナンスプログラムへの参加を決めました。
2. 入学当初、私は民間のシンクタンクへの就職を希望していましたが、修士1年のころにやはり研究がしたいという希望から、研究者へと志望を変更いたしました。そのため、就職活動はしておりません。
3. (3) どちらでもない
4. 特になし。
5. 統計ファイナンスプログラムでは、主に以下の3点が非常に良かったと感じております。
 - ① 学習環境；個別の机が与えられ、cfee 内での PC では STATA や Matlab などのソフトを自由に使うことができました。
 - ② 発表の機会；cfee では毎年1回の研究報告がありました。修士の学生にとって、発表の場というものは数少ないものですが、その中でも2回も自分の研究を報告することができたのは非常に大きな経験であったと思います。今でもよい報告とは程遠いですが、1年時の報告は特にひどいものでした。しかしながら、2年時の発表では、少しでも成長した姿を報告することができたと思います。それは、1年時の発表の経験があったからこそだと思っています。
 - ③ 異分野との交流；私の専攻は応用経済であり、プログラムのメインである金融工学とは異なるものでした。しかしながら、②での発表やプログラム開催のセミナー等で、全く知らなかった金融工学の世界と接触することができたのは、大きな経験であったと思います。
6. 特になし。
7. 統計・ファイナンスプログラムでは、自分から積極的に働きかけることで、非常に大きなリターンを得られると思います。また、統計やファイナンスを学んでいる方が集まっているため、刺激にもなります。昼夜を問わず、思い切り勉強をすることができる環境が、cfee にはあると思います。

= F さん =====

1. 学部4年時から一人一つの机と、統計ソフトウェアなどの環境が与えられることに、魅力を感じたため。
2. 5年一貫の学生であることは、プラスに評価されることが多かったと感じます。
3. (1) とてもそう思う
4. 特になし。
5. 学部4年時から24時間使える研究室が与えられたこと。コピー機を無料で使えたこと。
6. 運営方針や予算配分などの決定に関して、学生側の意見を聞いて欲しかったです。
7. cfee の研究環境は、他大学の学生と比べても非常に恵まれていると思います。その環境を存分に生かして、勉強や研究に励んでください。

=Gさん=====

1. 黒住先生のゼミで、5年一貫制度を用いて進学したため、自動的にcfecに参加となりました。大学院進学理由は、計量経済学を上級レベルまで勉強したかったからです。
2. 全体的にすごく役に立ったとは言えません。5年一貫の学生であることは、時々面接のネタになったり、自分は挑戦が好きだというアピールになったりすることがありました。
3. (2)そう思う
4. データベースは使用していません。
5. 研究室の施設が充実していることです。特に、教科書が揃っていることはとても良かった。
6. 不満は得にありません。しかし、cfecに所属している学生間の交流が少ないし、イベントとかも少ない為、普段cfecに参加しているという実感がありません。
7. せっかくよく勉強できる環境が整って、様々な機会を与えてくれているのに、全く使わない人がいたりします。自分だけの机をもらう研究室は、一橋大学には本当に少ないから、cfecの人は恵まれています。それを利用しないことはすごくもったいないと思うので、皆さん遠慮なく使ってください。

=Hさん=====

1. 株価の動きについて予測するという明確な目標が入学前からすでにあり、斯波先生にお伺いしたところ金融工学教育センターの存在を教えていただいたのがきっかけです。丁度ファイナンスと統計を組み合わせた内容の学士論文を作成し、修士課程に進学して、その技術を更に発展させたかった自分にとって、非常に合っていると考えて参加を決めました。
2. 特に役に立ったことはありませんでした。専門職に応募していれば違っていたかもしれません。
3. (2)そう思う
4. 特にありません。
5. 申し訳ないことに私の場合は、存分にプログラムを活用できなかったと思います。落ち着いた自習スペースや共に学ぶ仲間達は、研究を進める上では貴重な存在でした。
6. cfecの全体会合は緊張感があり、モチベーションの維持に一役買ったので、できればあと1回多く開いても良いと思いました。
7. どのような設備があり、どのようなプログラムを活用できるかを、早めに知っておいたほうが良いと思います。設備はもちろんですが、チャンスの数も恵まれると思いますので、それを逃さないようにしてください。特に2年目からは積極さが感謝の気持ちと共に薄れるので、十分気をつけてほしいです。

= I さん=====

1. 大学院では、統計学を中心に研究したいと考えていたため。プログラムの終了に履修が必要な授業科目が、私が履修したいと考えていた科目と一致していた。また、机やWSを利用できるなどより良い環境で研究を行うことができるうえ、近い分野を研究している学生と同じ研究室であるために、研究に関する意見交換をできるだろう点も魅力に感じたため。
2. 統計・ファイナンスプログラムに所属していることを特にアピールしたりはしなかったもので、直接的には就職活動に役立ったとは言えない。ただ、統計学を研究したと自信を持って言えたことは希望する企業への就職に役立ったと思う。
3. (2) そう思う
4. 特になし。
5. 同じ分野を研究している学生と関わることで、刺激を得ることができた。計算に時間の掛かるプログラムをいくつも回さないといけなかったので、WSを利用できたことは大変助かった。
6. 特になし。
7. 統計・ファイナンスプログラムで得られる知識は、金融専門職に限らず、どの企業に就職しても必ず役立てることができます。研究室は残念ながら無くなってしまおうようですが、プログラムの提供するリソースをフルに活用すれば、充実した研究を行うことができるはずです。是非積極的に参加してください。

= J さん=====

1. 統計・ファイナンスプログラムで、高度な数理の専門的知識を身につけたかったから。
2. 非常に役にたった。cféeには金融や統計に関する専門書が数多く置いてあり、勉強する際非常に役立ちました。また、コンピューターソフトも充実しており、修士論文を書く際大変お世話になりました。
3. (1) とてもそう思う
4. 特になし。
5. ワークショップにおいて、学内だけでなく他大学の先生の研究発表を数多く聞け、最新の研究に触れられる大変貴重な時間を過ごすことができました。
6. cféeの部屋がなくなるのは寂しいです。
7. このプログラムでは高度な数理知識を身につけることができ、そこで得た知識と数理的思考は社会に出た後、必ず自分を助けてくれます。大学生活はあっという間に過ぎてしまうので、悔いが残らないようたくさん勉強してください。

* H20-27 年度の累計回答数

3. このプログラムの提供科目は、将来の仕事に役立つと感じていますか？下から選んで下さい。

(1)とてもそう思う	15 人
(2)そう思う	15 人
(3)どちらでもない	4 人
(4)そう思わない	0 人
(5)全く思わない	0 人

発行日	平成 28 年 3 月
発 行	一橋大学大学院経済学研究科 金融工学教育センター Center for Financial Engineering Education
編 集	山田悦子
住 所	〒186-8601 東京都国立市中 2 - 1
電話&fax	042-580-9129
e-mail	cfee@econ.hit-u.ac.jp
url	http://www.econ.hit-u.ac.jp/~finmodel/